

アドバンスト生物

責任者・コーディネーター	生物学科 松政 正俊 教授		
担当講座・学科(分野)	生物学科、法医学講座、機能生化学講座、細胞病態生物学講座、微生物薬品創薬学講座、生化学講座細胞情報科学分野		
担当教員	松政 正俊 教授、三枝 聖 講師、角井(蛭田) 千鶴江 助教、出羽 厚二 教授、中西 真弓 教授、奈良場 博昭 准教授、西谷 直之 講師、帖佐 直幸 特任講師、安達 登 非常勤講師、栃内 新 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

アドバンスト生物は、入学時の基礎学力調査テストにおいて、高等学校生物（生物基礎・生物、旧課程では生物I・II）履修相当の知識を有すると判断された学生を対象とする医歯薬共通の選択必修科目である。医歯薬分野において生物学の知識は必須であり、常に学修しつづけるモチベーションを維持していくことが肝要である。本科目では、担当者が専門とする分野を中心に、特に自然科学系および医療系の大学生に必要なと思われる生物学・生命科学の大学初等レベルの知見・考え方を提示する。

・教育成果（アウトカム）

医学、歯科医学、薬学、および生物学の専門家がそれぞれ提供する話題を傾聴し、そのエッセンスを抽出することにより、生物・生命科学的の様々な視点、科学的な根拠にもとづいた論理的な考え方が身につく。また、境界領域における課題解決における多分野の専門家・多職種の連携の重要性が理解される。これらの過程において、生物学的な課題の設定の仕方やその解決へのプロセスの醍醐味を知り、生物学を学び続ける姿勢が身につく。

・到達目標（SBO）

1. 生物学と、自然人類学など人間を対象とした学問との関係を概説できる。
2. 進化の産物としてのヒトの特徴を列挙できる。
3. 類人猿とヒトの相違、およびヒトの系統進化について概説できる。
4. 「性」と「生殖」について発生学・分子遺伝学的な議論を展開できる。
5. 生殖の様式や性比と、動物の社会構造との関連を概説できる。
6. DNA 多型性とは何か説明できる。
7. Y 染色体 DNA とミトコンドリア DNA の特異性を説明できる。
8. 変異とはなにかを定義し、種々の変異が維持されるしくみを概説できる。
9. 寿命の生物学的意義を、ヒトを再生系として捉えて説明できる。
10. 病気を、進化という視点を取り入れて考察できる。
11. 非感染性疾患を定義し、慢性炎症がその基盤病態であることを説明できる。
12. がん細胞の転移や骨代謝における酸性環境の関与を説明できる。
13. 分子標的治療薬とは何かを理解し、その有効性について概説できる。
14. 幹細胞の特性を概説し、その医療への利用の可能性と課題について考察できる。
15. 遺伝子診断・DNA 型鑑定に利用される分子生物学的技術とその原理を説明できる。
16. 自らの生物学的興味を明確にし、その重要性を説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 101 1-A 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/13	水	2	生物学科	松政 正俊 教授	イントロダクション：生物学から見たヒト・人間 (「自然・文化人類学」と合同)
4/20	水	2	生物学科	三枝 聖 講師	ヒトの起源 類人猿とヒトとの相違点を挙げ、進化的事象を考察する。アフリカ単一起源説について概説し、支持根拠や論争点について紹介する。
4/27	水	2	生物学科	角井(蛭田)千鶴江 助教	性と生殖 生命の連続性を支える「性」と「生殖」について概説し、ゲノムの混合・再編の視点から2つの現象の本質を考察する。
5/11	水	2	生物学科	松政 正俊 教授	動物の社会と性 いくつかの典型的なタイプの動物の社会構造をあげ、雌雄の関係・葛藤との関連を考える。
5/18	水	2	教養教育センター 法医学講座 生物学科	安達 登 非常勤講師 (山梨大学教授) 出羽 厚二 教授 角井(蛭田)千鶴江 助教	ミトコンドリア DNA 多型からみた人類学 (「自然・文化人類学」と合同)
5/25	水	2	生物学科	松政 正俊 教授	集団における遺伝学 ヒトを含む動物集団の種々の変異が維持されるしくみを考える。
6/8	水	1	教養教育センター 生物学科	柄内 新 非常勤講師 (北海道大学 元・教授) 角井(蛭田)千鶴江 助教	ヒトはなぜ死ぬのか (「自然・文化人類学」と合同) 動物にはなぜ寿命があるのか、寿命の生物学的意義、再生系としてのヒト、幹細胞、ヒトは何歳まで生きられるか
6/8	水	2	教養教育センター 生物学科	柄内 新 非常勤講師 (北海道大学 元・教授) 角井(蛭田)千鶴江 助教	進化から見た病気 (「自然・文化人類学」と合同) 進化と病気、免疫のはたらき、風邪はなぜ治るのか、ヒトと病原体の進化競争、抗生物質はなぜ効かなくなるのか、文明病
6/15	水	2	細胞病態 生物学講座	奈良場 博昭 准教授	非感染性疾患 (NCDs) の背景にある慢性炎症
6/22	水	2	機能生化学講座	中西 真弓 教授	生体内酸性環境とがんの転移、骨代謝

6/29	水	2	微生物薬品創薬学講座	西谷 直之 講師	分子標的治療薬から見るがんの生物学
7/6	水	2	生化学講座 細胞情報科学分野	帖佐 直幸 特任講師	幹細胞生物学と未来医療 再生医療や細胞治療を担う幹細胞について知るとともに、幹細胞の階層性や生体における機能を理解する。将来の医療人として幹細胞を利用した未来の医療やその問題点について考えることができる。
7/13	水	2	生物学科	三枝 聖 講師	遺伝子診断・DNA型鑑定と生物学 遺伝子診断とDNA型鑑定にて行われている分子生物学的技術と、生物学的背景について紹介する。
7/20	水	2	生物学科	松政 正俊 教授	生物学的な課題の発見と見通し レスポンスカードを振り返りながら、自らの興味がどこにあるかを探し出し、その重要性を議論して今後学修すべきことを明確にする。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	ZERO からの生命科学改訂 4 版	木下 勉 他	南山堂	2015
参	Essential 細胞生物学 原書第 4 版 訳書	Alberts 他	南江堂	2016
参	レーヴンジョンソン生物学 原書第 7 版 [上]	Raven 他	培風館	2006
参	レーヴンジョンソン生物学 原書第 7 版 [下]	Raven 他	培風館	2007
参	進化から見た病気―「ダーウィン医学」のすすめ (ブルーバックス)	柄内 新	講談社	2009
参	ヒトを理解するための生物学	八杉貞雄	裳華房	2013
参	進化医学 人への進化が生んだ疾患	井村裕夫	羊土社	2012

・成績評価方法

レスポンスカード（90%程度）と受講態度（10%程度）により総合的に評価する。

・事前学修時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、参考書等・レジメを用いて予習・復習を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ビジュアルプレゼンター (XGA)	1	講義資料供覧
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット	1	講義資料供覧
講義	デスクトップパソコン (EPSON・AY311S)	1	講義資料作成、他
講義	ノートパソコン (Mac Mini MG270J/A)	1	講義資料作成、他
講義	複合機一式 (Canon・Image Runner iR2230F)	1	講義・実習等の資料印刷